

夢づくり協働推進事業の実施状況 4

事業名

ヒイゴ池湿地回復プロジェクト

事業の概要

ヒイゴ池湿地（総社市）は、トキソウ、サギソウなどの貴重な植物やハッチョウトンボなどが観察できる県内有数の湿原であり、岡山自動車道開設に伴い消失の危機にあったが、関係者の努力により保存整備された歴史を有する。

保存整備から10年余が経過し、ヒイゴ池湿地を巡る環境に様々な変化が見られることから、その回復保全のため、総社市の主体的取組の下、北の吉備路保全協会、地元町内会と協働して、現在のヒイゴ池湿地が有する問題の解決のための環境対策や関連施設整備を行うとともに、湿地環境について考え学ぶ講演会を開催した。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
備中県民局 総社市 北の吉備路保全協会 地元町内会（福井新田町内会）	補助金の交付 事業の企画立案・実施 事業に係る意見交換、事業内容を踏まえた現場管理 事業に係る意見交換、事業内容を踏まえた地元支援

実施状況

1 湿地環境対策（富栄養化対策等）

保存整備から相当年が経過し、雑草の繁殖や周辺樹木の生長による日照阻害など湿地を巡る環境にも変化が見られ、湿地存続にも影響が認められることから、湿地環境に関する専門家による専門的・学術的視点からのヒイゴ池湿地の現状把握及び評価を参考としながら、課題解決のための湿地環境対策として、雑草の除去・刈り払い等の富栄養化対策や樹木伐採などを実施した。

2 関連施設の整備

現場管理主体の北の吉備路保全協会や地元町内会の意見を取り入れながら、環境学習の場として一層の活用が図られるよう散策木道を整備するとともに、在来種の駆逐や雑種交配が懸念される外来モウセンゴケや、ハッチョウトンボのヤゴなどを捕食するブラックバスやブルーギルなどの外来生物の持込を防止するため啓発看板を設置した。

- ・散策木道 幅660mm、延長50m
- ・外来生物対策看板 木柱パネル2枚



3 講演会の開催

地域に愛される貴重な自然資源として、ヒイゴ池湿地が将来にわたり良好な状態を維持していくための契機となるよう、講演会を開催し、ヒイゴ池湿地の魅力を再評価し、湿地の保護保全の取組の盛り上げを図る。

- ・日時 平成23年 3月13日（日）14:00～15:30
- ・場所 総社市保健センター2階 保健指導室
- ・講演者 岡山県自然保護推進員 萱原 潤 氏
- ・演題 ～ヒイゴ池湿地～自然への思い



成果・効果

- 1 専門的知見を参考としながら湿地環境対策を講じることにより、ヒイゴ池湿地の保護保全を図ることができた。併せて、関連施設を整備することにより、環境学習の場としてのポテンシャルを高めることができた。
- 2 ヒイゴ池湿地の保護保全に向けた協働の取組を深めることにより、ヒイゴ池湿地の協働の歴史に改めて光を当て、協働による保護保全の気運を高めることができた。